

平成 28 年度第 1 回浜松市創造都市推進会議 議事録

日 時：平成 28 年 7 月 4 日（月）午後 1 時 30 分～午後 3 時 26 分

場 所：浜松市役所本館 8 階 第 4 委員会室

出席者：根本敏行会長、寺田聖子副会長、和久田明弘委員、桧森隆一委員、佐藤洋一委員、伊豆裕一監事、山名裕監事

欠席者：柰屋英夫委員（代理：辻頼男）

（オブザーバー）

中村公彦創造都市推進担当課長、石塚良明国際課長（代理：原川知己課長補佐）、森田孔二文化政策課長、瀧下且元産業振興課長（代理：鈴木和彦観光・シティプロモーション課長（代理：加藤智春観光・シティプロモーション課長補佐）

報道関係：2 人（中日新聞社×1、静岡新聞社×1）

傍聴人：1 人

事務局：影山元紀主幹、野寺彰子主任、新山隆平主任、外山裕太、佐藤佳澄（以上、文化政策課創造都市推進グループ）

鈴木三男文化政策課長補佐

鈴木正仁生涯学習課長、藤田健次生涯学習課長補佐

1 開会

（中村公彦創造都市推進担当課長）

本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。定刻となりましたので、浜松市創造都市推進会議の平成 28 年度第 1 回会議を始めさせていただきます。

本日は、過半数を超える委員にご参加いただいておりますので、会議が成立していることを報告させていただきます。

規約によりまして、委員の皆さまには今年度 4 月 1 日付けで就任して頂いています。これから一年間よろしくお願ひします。ここで今年度より新しく就任された委員がいらっしゃるのでご紹介いたします。

- ・静岡文化芸術大学デザイン学部長 伊豆 裕一 委員
- ・浜松市市民部文化振興担当部長 寺田聖子 委員

また、本日は浜松商工会議所理事の柰屋委員が欠席のため、代理として浜松商工会議所産業振興部長補佐の辻様にご出席いただいております。

なお、役員につきましては会長を根本委員、副会長を寺田委員、監事を伊豆委員、山名委員ということで、4 月 1 日付けで就任していただいております。よろしくお願ひいたします。

（事務局 影山）

次に、会議資料について確認いたします。

(※資料 1～4、参考資料について配布確認)

それでは、ここからの進行は根本会長にお願いいたします。

(根本会長)

それでは簡単にあいさつさせていただきます。本日の議事 3 にモニタリング指標についてとありますが、本学でも県に対して自己評価を報告したり、監査が入ったりしています。

もう一つ、本日の議事 2 の中間支援組織についても、現在は PDCA などの評価項目が重要視されています。したがって、その辺も踏まえながら前向きな議論を委員の皆さんと行っていければと思っていますので、よろしくをお願いいたします。

2 議事

審議事項 1 平成 27 年度浜松市創造都市推進会議事業報告・決算報告について

(根本会長)

それでは順番に審議事項の一つ目「平成 27 年度浜松市創造都市推進会議事業報告・決算報告について」資料に基づいて事務局から説明をお願いします。

(事務局 新山から資料 1「平成 27 年度浜松市創造都市推進会議事業報告・決算報告」の説明)

(根本会長)

それでは、決算報告については監事による監査を受けておりますので、代表して山名委員に監査報告をお願いします。

(山名監事)

5 月 30 日に関係書類及び帳簿等を監査確認いたしましたところ、いずれも適正に処理されていることを認めましたので、この会議の場で報告いたします。

(佐藤委員)

資料の決算報告の支出部分について、「1 創造都市推進費」と「1 総務費」の各項目が同額となっていますが、正しくは「1 創造都市推進費」と「支出合計」の各項目が同額一致するではないでしょうか？

(事務局 影山)

大変失礼しました。佐藤委員のおっしゃる通りとなります。

(根本会長)

では、事務局は該当部分を訂正してください。

(根本会長)

それではこの事業報告・決算報告を決議してよろしいでしょうか。

(一同異議なし)

それでは、この事業報告・決算報告を決議いたします。

審議事項 2 中間支援組織等に関する調査研究の報告について

(根本会長)

次に、「中間支援組織等に関する調査研究の報告について」ですが、こちらは静岡文化芸術大学と浜松市で昨年度、共同研究を行ったものです。それでは、資料 2 に基づき、研究者である私から報告をいたします。

(資料 2「中間支援組織等に関する調査研究の報告について」に基づき説明)

(桧森委員)

アーツカウンシルを考えた時、助成や評価を担当する人物は、周りが納得するような人であるべきだと思います。資料 2 に記載されている人たちや「みんなのはままつ創造プロジェクト」で審査員を務めている人たちは、すでに浜松市の鴨江アートセンターとさまざまなつながりや関係性を持っているので、ある程度、人的には揃っていると思います。

(根本会長)

私も同感で、すでに人的ネットワークを浜松市は築いていると思います。

審議事項 3 アクションプログラム進捗状況、モニタリング指標について

(根本会長)

さて次に、平成 26 年度に策定した「アクションプログラム」の進捗状況について、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局 新山から資料 3「アクションプログラム進捗状況、モニタリング指標について」に基づき説明)

(伊豆監事)

浜松市の 1 世帯当たりの文化にかける年間支出金額は、全国平均と比べてどうでしょうか？

(事務局 新山)

総務省統計局が行っている家計調査の平成 27 年データによると、全国平均は 18,235 円で、浜松市は 22,828 円なので、全国平均を上回っています。

(伊豆監事)

全体の中もしくは、国内の創造都市の中での市の順位はわかりますか？

(事務局 新山)

手元に情報がありませんので、後ほど調べておきます。

(根本会長)

評価のための評価にならないためには、前年比だけではなく、全国平均や他の創造都市と浜松市との比較を出した数字にこそ意味が出てきます。今後そういった数字をモニタリングしてください。

(桧森委員)

比較する他のユネスコ創造都市という点では、同じ政令指定都市でもある新潟市などと比較すると良いでしょう。また、北九州市は良い比較対象になります。

もう一点として、創造都市・浜松のウェブサイトの年間アクセス数が、私の感覚だと少なく感じます。年間アクセス数としては、数十万アクセスが相応だと考えます。

(根本会長)

確かにアクセス数は少ないと思います。アクションプログラムの内容は、適宜、ウェブサイトへ反映されます。浜松市はアマチュアの人たちが色々な音楽イベントへ参加しているので、そういったイベントをウェブサイトで周知してみてもいいのではないでしょうか。

また、外国人宿泊者数は、現在のところ数値的に伸びているが、この先も伸びるかどうかは不透明です。

審議事項 4 市民文化創造拠点施設基本構想の策定について

(根本会長)

続きまして、審議事項(4)「市民文化創造拠点施設基本構想の策定について」、事務局から説明をお願いいたします。

(中村公彦創造都市推進担当課長)

「市民文化創造拠点施設基本構想の策定について」については、これまでの経緯も含め、鈴木正仁生涯学習課長から説明させていただきます。

(事務局 鈴木正仁生涯学習課長から、資料4「市民文化創造拠点施設基本構想の策定について」に基づき説明)

(桧森委員)

施設というのは、単なる箱でなく機関(institute)と捉えるべきです。また、instituteとして、どうゆう機能を有すればよいのか考慮すべきです。目的を果たすためにどのようなハードとソフトが必要なのか instituteの点から見るべきだと思います。

中心市街地活性化をどのように市は考えているのでしょうか。中心市街地活性化のためには、中心市街地の中に演劇・コンサートホールや集客施設を設置する必要があります。したがって、新施設をはまホールよりもさらに中心市街地へ造った場合は良いですが、逆に郊外に造ってしまった場合は、中心市街地活性化にはならないと思います。

はまホールを使用していた市民の方たちは、安く借りることができる施設を求めています。利用料金が高い施設は求めています。利用者が求める施設は、現在のところ市で不

足していると思われます。また、どのような団体や人が使用していく施設なのかをイメージする必要があります。

(根本会長)

おっしゃる通りで、ただの箱モノを造るのではありません。

(和久田委員)

今後、全 4 回程度で市民文化創造拠点施設基本構想の策定をしていくとのことですが、検討項目は 10 項目すべてを検討していくのでしょうか。また、推進会議と庁内検討会の関係性についてはどうなるのですか。

(中村公彦創造都市推進担当課長)

基本的に 10 項目すべてを検討していきます。ただ、全 4 回の議論を終えたとき、必ず結論を出せるのかどうかは、進捗状況を見ながら調整していく必要があります。

推進会議と庁内検討会の関係性については、庁内検討会で検討項目について作成した原案を基に、推進会議内で議論していきます。

(伊豆監事)

基本的な質問ですが、市民文化創造拠点施設はいつぐらいに出来上がるなどの目標はありますか。

(中村公彦創造都市推進担当課長)

スケジュールについては、現時点では決まっていません。今年度の基本構想の策定を進めていく中でどのような施設にするのか、また、スケジュールについても検討していきます。

3 その他

(根本会長)

それでは他委員から全体を通してコメントをいただければと思います。

(寺田副会長)

市民文化創造拠点施設については、中間支援組織との関連付けをしながら進めていきたいと考えています。また、他市の先進事例も参考にする必要はあると思います。

(佐藤委員)

平成 26 年は、浜松市の事業所開業数が廃業数を上回り、リーマンショック前の水準に戻ってきています。今、浜松市は創業支援に注力し、首都圏や海外で活躍しているベンチャー企業とコラボレーションなども考えています。ベンチャー企業を活かした創造都市の取組みを進めていきたいです。

これからの文化行政のあり方については、行政主体ではなく、市民及び団体を巻き込み

ながら広げていければと思います。

(辻委員代理)

現在の市の施策では、人の流れを東街区へ呼び込むようになっていると見受けられます。その中で、鍛冶町方面へも呼び込めるような観点で、市民文化創造拠点施設について検討してほしいです。

(山名監事)

市は地方創生を掲げているところですが、創造都市は浜松市としてアピールできる部分になるので、その強みを活かして地方創生に繋がると良いと思います。

(桧森委員)

現在、アーティストとエンジニアを組み合わせ、イノベーションを起こすプロジェクトを鴨江アートセンターで進めています。

(伊豆監事)

静岡文化芸術大学でも、学生たちの協力の下「ファブラボ」を運営し、夏休みに子どもたちを集めて、色々なものを制作しました。また、市内の企業を退職したエンジニアと学生を組み合わせプロジェクトを考えています。

(根本会長)

アーティストとエンジニアのコラボレーションは、浜松ならではの取組みだと思います。また、先ほど山名監事が言われた地方創生についてですが、中心市街地の活性化は重要ですし、さらに中山間地域や浜名湖地域についても同様です。

先ほどの研究発表では、他都市はアーティスト in レジデンス事業を活発に行っていました。中山間地域でのアーティスト and エンジニア in レジデンス事業、都心の活性化を車の両輪のような施策として、浜松市では進めていければいいかな、と個人的には思います。

4 閉会

(根本会長)

それでは、予定していた内容は以上でございます。事務局にお返しいたします。

(事務局 影山元紀)

以上をもちまして、平成 28 年度第 1 回創造都市推進会議を終了します。本日は会議での活発な審議をいただき、ありがとうございました。次回会議の開催については、改めてご案内させていただきますので、よろしく願いいたします。